

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100383		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター和歌山城北 (けやき)		
所在地	和歌山県和歌山市二筋目11番		
自己評価作成日	平成28年6月29日	評価結果市町村受理日	平成28年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3090100383-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3090100383-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成28年8月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「明るい笑顔はみんなの宝」をホームの理念に掲げ、職員一同がケアに力を入れています。家庭的な環境を作る為利用者に調理に入ってもらったり、庭での家庭菜園をしたりと利用者様がホームで笑顔で過ごして頂ける様いろいろな取り組みを行っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念である「明るい笑顔はみんなの宝」を実践するために、利用者にとってよりよい支援は何かを念頭に置き、笑顔が見られる様に職員は声をかけ合いながらチームワーク良く見守り、細やかなケアに努めています。特に利用者の残存機能を活かし、下肢筋力が低下しないように毎朝新聞を取りに行き居室に配達する方や調理に携わる方等役割割りやり甲斐を見極めて自立支援に取り組んでいます。また、ボランティアや定期的に地域の敬老会の方々が来訪し利用者との交流の機会を持っており、地域の方と馴染みの関係を築き地域に根差した事業所となるよう取り組んでいます。医療面では医師や薬剤師、訪問看護師との関係も良好で、情報を共有することで終末期ケアにも取り組み、職員の思いが一つになり利用者を支えているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「明るい笑顔はみんなの宝」という理念を掲げ、利用者の笑顔が沢山生まれるようケアに力を入れています	入職時には法人理念や事業所理念についての研修を行い、日々のケアでは先輩が実践を通して伝えています。フロアに理念を掲げ職員は意識して利用者の笑顔が増えるような関わりを考え支援し実践に繋げています。また、毎年行事計画の作成時にも理念の実践状況を振りかえり次年度に活かせる様に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の慰問や行事、イベントの際のボランティアの訪問。近くのスーパーや神社、花見などに出かけている	毎日職員が事業所周辺を清掃する際には近隣の方と気軽に挨拶を交わしています。花の種を持って来てくれる方や地域の老人会が定期的にプレゼントを持参しての訪問や日本舞踊やフラダンス等のボランティアの来訪もあり、中学生や高校生の体験学習の受け入れも行っています。また、事業所で行われる夏祭りの案内も地域に向けて行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、地域の方に参加していただき少しでも認知症について理解してもらえる機会を作っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回開催し、参加者にホームの現状を知っていただき意見や情報交換を行っている	運営推進会議は2カ月に1回家族や地域包括支援センター職員、訪問看護師や薬剤師、他事業所管理者が参加し事業所の現状や今後の予定等を報告しています。津波についての避難場所の確保や認知症の勉強会、認知症カフェ開催に向けた意見交換が行われる他、外出場所等の情報も得ています。会議の前にはテーマを決め家族全員に案内を送付し結果も全家族に送付し内容を知ってもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで、地域包括支援センターの方に参加していただきホームの現状をさせていただいている	運営推進会議の議事録を直接持参し担当者に行事報告や夏祭りの案内も行っています。また、業務や分からないことは出向いたり電話で相談できる関係が構築されています。研修案内もあり希望する職員にはシフトなどの調整を行い参加出来る様に配慮をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会の設置、勉強会、ミーティングを実施している	事業所内で身体拘束防止委員を各フロアごとに定めた委員が中心となり研修のための資料作りから勉強会を開催しています。勉強会では日々のケアでの事例や具体的な対応を挙げて発表し、質疑応答では利用者への言葉による制止も含め不快な思いをしていないか等の話し合いを行っています。外に出たい様子が見られた場合は職員が付き添ったり見守りながら外気浴や散歩を支援しています。	

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止の勉強会を行い、外部の研修も受講している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてはご家族様の希望で活用しているケースがある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前アセスメント、書類の読み合わせ、説明を実施し、入居者、家族の不安解消のため時間をかけて話をするようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で入居者や家族から意見をいただき、運営に反映している	家族の面会時には直接意見や要望を聞いています。外出の機会を多くして欲しいという意見を基に職員間で話し合い職員体制がある時は外出の機会を増やす様に取り組んでいます。また、法人が満足度アンケート調査を年に1度行っており、その結果を職員間で話し合い速やかに対応し改善したことや取り組み状況等を家族と法人に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や業務ミーティング等で職員が意見を伝える機会を作り反映するようにしている	毎月行われるホーム会議や毎日の申し送り等で職員からは主に業務内容や休憩時間についての提案や意見が出され、検討し職員間で共有できるようにしています。また、意見が出しやすい雰囲気作りを行い、日々管理者は多くの意見や相談を受け、定期的な面接の他悩みを抱えている職員には個別に面接を行い、意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社によるスキルアップ手当があり、スキルアップする機会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社のスキルアップ研修、ホーム内での勉強会の実施、外部での研修の際は業務調整を行っている		

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議への参加を通して他の事業所との交流をつくり、イベント等へ参加や訪問の機会を作っている		
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アセスメント、入居時カンファレンスで利用者家族ともじっくり話しを聞く時間を設けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前アセスメント、入居時アセスメントで家族の意見、要望を機会を設けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント訪問時、グループホームでの生活が適しているか否かの判断をしながら話を進めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見を尊重し、できる限り残存機能を活かしながら生活機能の維持向上をスタッフと共に実施している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とケアの方針について、面会時等にカンファレンスを行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には馴染みの物、好きな物を出来る限り置けるようにし、家族が制限される方以外は9時から18時まで面会できる	家族以外にもひ孫や友人の方の面会があり、居室に案内しお茶を出したり、椅子を準備するなどゆっくり過ごしてもらえるように支援を行っています。馴染みの場所や人の情報が聞かれた場合には支援に繋がる様に心がけています。手紙や年賀状のやり取りに関しても一緒に作成したり、投函に行く等、馴染みの関係が途切れないように支援をしています。	

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に一度は、ホーム全体でのレクリエーションを提供しており、日々のレクリエーションでは個別に行うものと少数で行うものに分けて提供している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は入院が多く、退去後もお見舞いに行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向を表明できる方は、できる限りそれを尊重し、出来ない方については、日々の生活の中で本人本意の生活を探すように努め、それを家族と検討している	入居前に利用者の今までの生活状況など出来る事や出来ない事、日課、習慣、好み等を家族に所定の用紙に記載してもらい、情報を得て面談を行い利用者や家族の思いを把握しています。入居後は利用者の表情や言葉等些細なことも介護記録に記載しミーティングで話し合い心身の変化も含め職員間で共有できるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、お客様から得たなじみのものや情報をスタッフで共有、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を毎日記録、医療機関対応時の記録を行い、申し送りし現状の把握。センター方式を利用し、何が出来るか分かるかを把握するようにつとめている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、本人や家族、職員の意見を取り入れケアプランを作成している	本人の思いや家族の意向等をアセスメントし、サービス担当者会議を開き介護計画を作成しています。計画の実施状況を支援経過にまとめ、3ヶ月毎にモニタリング及び評価を行い、計画が現状に即しているかを確認し見直しています。サービス担当者会議には家族や利用者が参加し、医師や訪問看護師には事前に意見をもらい、場合によっては参加を得ることもあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア内容や活動を介護記録に記入し、情報を共有できるようにし、必要時にはカンファレンスを行っている		

ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護や訪問マッサージ等、ニーズに合わせたサービスが提供出来る様に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの活用、近隣のスーパーや百貨店への買い物を楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各利用者の主治医と連携し、定期的な往診、緊急時に指示をいただける様に連携している	入居時にかかりつけ医について説明を行い今までのかかりつけ医を継続している方もいます。協力医の往診は月に1回あり、週に1度訪問看護師による健康管理も行われています。夜間や緊急時には訪問看護師に連絡し指示をもらい、必要時には協力医に往診に来てもらえる関係が構築されています。歯科や皮膚科の往診もあり希望者は診察を受けています。往診結果はその都度家族に連絡しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護によるバイタルチェックがあり、様子を伝えている。また状態が悪い利用者がある場合は、連絡すると指示等をいただきたり状況によって訪問していただける		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に病院へ訪問し状態の把握、退院について病院、家族と話し合い受け入れ状態を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、訪問看護、家族と終末期の方針を話し合い、職員間でのカンファレンスを行い、決めた方針を連携して支援している	入居時に重度化の指針についての説明を行い同意を得ています。状況によりかかりつけ医と相談し家族に意向を再確認し今後の方針を決め、職員間で話し合い支援しています。医師や訪問看護師より経過や注意事項の説明もあり、ケース毎にアドバイスをもらったり、相談ができ、利用者の最期をどのように支援出来るかを考えてケアに取り組んでいます。また、年に1度終末期や看取り、緊急時の対応についても勉強会を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を見える所に掲示している		

ニチケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年に2回実施し、緊急時の避難場所を掲示している	年に2回昼間を想定し利用者も参加し避難訓練を行い、内1回は消防署の指導の基、通報から初期消火、避難誘導や水消火器による消火訓練を行っています。自主訓練では地域の他事業所と合同で避難訓練を実施し、避難場所の確認等を行っています。運営推進会議では訓練結果を報告しています。備蓄も1週間分を準備しています。	地域の他事業所との協力体制を築き訓練を合同で行っていますが、夜間想定での訓練や地域の方の参加が得られる働きかけをされては如何でしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナー研修を定期的 to 実施し、声掛けは笑顔で行う様にしている。また、受容、傾聴、共感を大切にしている。	採用時に接遇やマナーに関する研修を行い、事業所では日々のケアを通して先輩職員より指導を受け、敬語での対応を基本に個々に合わせた声掛けも行っています。特に排泄に関しては声の大きさや周りにも配慮し、第三者が聞いても不快がないように気を付けています。また、希望があれば同性介助も行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や食べ物、余暇の時間の過ごし方など、できる限り自己決定してもらっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、入浴の時間以外は自分の好きな場所で生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服を選んでいただいたり、訪問理容の際は自分で長さや形を決めていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に調理や下ごしらえに参加していただき食事に対する楽しみを作っている。また、誕生日やイベントの際にはリクエストにお答えするようにしている。	献立はユニット毎に利用者の希望やチラシを見て相談しながら1週間毎に決め、利用者の能力に合わせて、下ごしらえや調理、テーブルの準備等出来る事に携わってもらっています。弁当や寿司の出前をとったり、外食に出かける等、食事を楽しむ機会も設けています。またテラスでさんまを焼いたり、畑で育てた季節の野菜が食卓に上がる事も楽しみの一つとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は介護記録に記入している。必要に応じ、トロミ粉の使用、刻み食の提供を行っている。個々の食事量や体格に合わせて盛り付けを加減している		

ニチケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後は介助または自己にて口腔ケアの実施。夕食後は義歯を洗浄液で浸け保管している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を行い、失禁とならないよう定期的にトイレ誘導を行っている。現在1名が立位困難である為トイレ誘導が出来ていない状態である	排泄の記録を基にパターンを把握し、一人ひとりのリズムに合わせた支援をしています。立つことが出来る方はトイレでの排泄を基本とし支援しています。個々の状況をミーティングや日々支援する中で職員間で話し合い、尿意が戻った利用者は紙パンツから布の下着とパッドのみになった事例もあり、自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食材や果物を多く摂取してもらい、水分補給と適度な運動を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の意思や体調を確認し変更している。また、入浴中は一緒に歌を歌ったり会話をし入浴が楽しめるよう工夫している	入浴は週に3回利用者の希望を聞いたり体調に合わせて対応し、希望により回数を増やすことも可能です。入浴を拒む方にはタイミングやその方に合わせた声かけを工夫したり、好きな入浴剤を選んでもらい、寛いだ気分で入浴できるよう支援しています。また、重度の方も男性職員が二人いる時は湯船に浸かれるよう支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中であっても、居室にて休みたい方については誘導し、休んでいただいている。また、定期的に布団を天日干しし、カバーやシーツも洗濯している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会社独自のマニュアル、居宅療養管理制度の導入により、誤薬防止を徹底している。また服薬、確認は2名体制で実施している。処方箋のファイルを作成し、いつでも確認出来る様保管している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出レク、散歩、月に一回のお楽しみ会、誕生日会など様々な企画を計画し、出来る限り利用者様に楽しんで過ごしていただけるレクを計画している		



ニチイケアセンター和歌山城北(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や希望を考慮し、散歩や外出を行い、個人的な外出の家族様と連携し、積極的に行っている	天候の良い日には散歩や買い物に出かけたり、近所の桜や梅の花を見に行っています。職員と一緒に庭の手入れや畑での野菜作りや収穫を行ったり、テラスでおやつを食べるなど外気に触れる機会を作っています。また、食事会を兼ねた外出行事を企画し、その際には家族にも声をかけています。また家族が面会に来られた時には一緒に散歩に出かける方もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、利用者はお金を所持しておらず、お小遣いとしてホームで管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いのはがきをだしたり、家族へ電話出来るように家族と連携している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	イベント時の写真の掲示、利用者の作品の展示をしている。また、時期時期に合わせた飾り物を行っている	共用空間は毎日換気を行い利用者にも清掃に携わってもらい、利用者の体感を確認しながら室温の調整を行っています。行事の写真や毎月利用者と共に作った貼り絵の作品を飾っています。廊下の隅に休憩できる椅子が配置され、畳のスペースでは洗濯物をたたんだり、テレビを見たり、休憩など好きな場所で自由に寛いで過ごす事が出来る空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや和室で自由に過ごしていただき、入居者同士会話をして過ごしている事もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が慣れ親しんだ家具を持ってきていただき、危険がないように家具の配置も気をつけている	入居時に馴染みのものを持ってきてもらうよう伝え自宅で使用していた筆筒やロッキングチェア、自分で編んだカーデীগンや趣味で作った作品、家族の写真等を配置し一人ひとりにあった居心地の良い空間を工夫しながら作っています。また、自宅で行っていた仏壇にお水を備えたり、掃除等の生活習慣も続けられる環境作りを支援しています。また毎日の掃除や換気も出来る方は一緒に携わってもらっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせて出来ない事を出来る様に支援している。またホーム内は段差も少なく、手すりも付いているので、安全に移動出来る様になっている		